

歩掛参考見積募集要領

次のとおり歩掛参考見積を募集します。

令和7年 9月 5日

独立行政法人水資源機構

筑後川下流総合管理所長 北村 達也

1. 目 的

この歩掛参考見積の募集は、筑後川下流総合管理所が予定している業務の積算の参考とするための標準的な作業歩掛及び同分野に関連する技術資料（以下、参考見積等という）について、募集するものです。

2. 参考見積書提出の資格

- (1) 水資源機構における令和7・8年度一般競争（指名競争）参加資格業者の認定を受けていることとします。
- (2) 営業に関し法律上必要とされる資格を有していることとします。
- (3) 水資源機構から「工事請負契約に係る指名停止等の措置要領」（平成6年5月31日付け6経契第443号）に基づき、筑後川水系関連区域において指名停止を受けていないこととします。

3. 参考見積書の提出等

参考見積書は、次に従い提出してください。

- (1) 参考見積書は、作業項目毎に必要な技術者、資機材等の人数等を記載して提出して下さい。なお、参考見積書の様式は別紙見積様式を参考にしてください。

- (2) 提出期間：令和7年 9月 22日（月）まで

持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、
午前9時から午後5時まで

- (3) 提出先

独立行政法人水資源機構

筑後川下流総合管理所長 北村 達也 宛

なお、送付先は以下のとおりとする。

〒830-0071 福岡県久留米市安武町武島1063-2

【担当】経理課 鶴川

TEL 0942-26-4551 FAX 0942-26-1525

E-mail: nyukei_chikugokaryu@water.go.jp

- (4) 提出方法

書面は持参、郵送、FAX またはメール（いずれも社印があること）により提出するものとします。

ただし、社印は「本件責任者及び担当者」の氏名及び連絡先を明記することで省略することができます。

なお、参考見積書の件名は「筑後川下流用水管内水中部調査業務（仮称）」としてください。

- (5) 業務費の構成と歩掛見積徴取範囲

- ① 本歩掛参考見積を適用する業務費の構成は、当機構が別に制定する「積算基準及び積算資料（調査等編）」（以下「基準書」という。）によるものとします。
- ② 歩掛参考見積徴取範囲は基準書で定義されている直接人件費のうち、下記「4. 参考見積内容」を実施する為に必要な技術者の人数及び機械等損料を募集します。
なお、見積金額には消費税は含まないものとします。

（6）技術者の職種と定義

国土交通省が公表している「令和7年度設計業務委託等技術者単価」における「技術者の職種区分定義」によるものとします。

4. 参考見積内容

（1）基本事項

歩掛参考見積りは、入札目的のものだけではなく、別紙見積条件に示す作業を実施する標準的な歩掛とします。

（2）目的

「筑後川下流用水管内水中部調査業務（仮称）」を行うために必要な歩掛を聴取するものです。

（3）見積内容

見積内容の詳細については、別紙見積条件のとおりとします。

（4）見積有効期限

令和8年（2026年）3月末日とします。

5. 募集要領に対する質問

この募集要領に対する質問がある場合においては、次に従い、書面（様式は自由）により提出してください。

（1）提出期間：令和7年 9月 16日（火）まで

持参する場合は、上記期間の土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、午前9時から午後5時まで

（2）提出場所：3.（3）に同じ。

（3）提出方法：3.（4）に同じ。

6. 質問に対する回答

質問に対する回答書は、次のとおり閲覧に供します。

（1）閲覧期間：質問書提出期限の翌々日から見積書提出期限終了まで

（2）閲覧方法：ホームページに掲載します。

7. 参考見積書作成及び提出に要する費用

参考見積提出者の負担とします。

8. ヒアリング

提出していただいた参考見積書についてヒアリングを実施することがあります。

9. その他

この参考見積書をご提出いただいたことで、業務の指名又は競争参加資格をお約束するものではありません。

ご提出いただいた参考見積書は、業務積算の目的以外には使用いたしません。

参考見積条件

1. 業務目的等

筑後川下流用水では、約 6.5 km の管水路・開水路の維持管理を行っており、定期的な機能診断調査を実施している。

管水路の機能診断調査にあたっては、管水路内部の水を排水した上で調査を行い、調査完了後に管水路への充水を行っており、多大な労力と経費を費やしている。

このため、管水路における調査作業の省力化を図ることを目的とし、ROV (Remotely Operated Vehicle) 等に搭載した 2D スキャニングソナー（以下、「水中ドローン」という。）により、管内変状計測を行うものである。

2. 調査区間

2-1 調査区間

水中ドローンによる調査区間は、表－ 1 のとおりである。

表－ 1 調査区間

調査箇所	構 造	備 考
大詫間幹線水路 (徳富分水土下流部) 佐賀県神埼市神埼町横武地先	延長 約 110m 管径 $\phi 1,350\text{mm}$ (内径) 管種：FRPM 管	令和 4 年管内調査箇所 搬入口：徳富分水土工

※調査区間については、【別紙－ 3】 参考図を参照

※過年度の管内調査箇所の調査結果については、【別紙－ 4】を参照

2-2 管内の水理条件

冬期かんがい期の通水停止期間中に調査を行うこととしており、管内流速はほぼゼロに等しく、かつ管内は満水状態である。また、濁度は 10 度程度、透視度は 50～100cm 程度を想定している。

2-3 調査条件

水中ドローンによる調査日数は、概ね 2 日とし、調査時間は 8：30～17：00 とする。

2-4 その他調査条件

(1) 水中ドローン投入口付近まで車輛の進入は可能であり、また投入箇所は表－ 1 のとおりである。

(2) 調査機種の選定においては、調査区間の管径及び投入箇所の開口部で投入・回収が可能なサイズとする。

(3) 水中ドローンの投入・回収に際して、仮設足場等の設置は不要と計画している。

3. 業務内容

3-1 事前準備

受注者は、本業務に関する業務内容を十分に把握したうえで、現地踏査を行い、それらをもとに調査実施にあたっての技術的方針（調査方法、安全対策など）及び作業工程を検討し、詳細な業務計画を監督員に提出するものとする。

なお、当該調査区間における過年度の管内調査結果を十分に把握し、今回の調査結果と比較して劣化の進行や水中ドローンによる調査精度等を確認できるように準備するものとする。

3-2 管内調査

(1) 調査準備

管内調査にあたり、ポータブル水質計等を用いて表－2に示す環境計測を行う。また、調査準備に必要な範囲内で、水中ドローンの試運転等を含めた水理条件等の確認を行うものとする。なお、管内の水理条件が異なる等で調査に支障がある場合は、監督員と協議を行うものとする。

表－2 環境計測項目

計測項目	計測器	単位等	計測回数	備考
気 温	温度計	℃	調査時 1 回	
水 温	水温計	℃		
天 候	目視	－		
濁 度	濁度計	度または mg/L、NTU		
流 速	流速計	m/s		

(2) 管内変状計測

①たわみ計測・継手間隔計測

たわみ計測及び継手間隔計測は2Dスキャニングソナーで行うものとし、取得したソナー画像を基に管内の天・地、左・右のたわみ量・継手間隔を計測する。併せて、計測箇所静止画を撮影するものとする。

②計測箇所等

たわみ計測と継手間隔の計測箇所は、各3箇所とし、計測する管は同一の管とする。

3-3 調査結果の取りまとめ

過年度と今回の管内変状計測結果を比較して、劣化の進行等及び水中ドローンによる調査精度を取りまとめるものとする。

3-4 有用性整理

2Dスキャニングソナーによる管内変状計測の有用性について、整理を行うもの

とする。

なお、有用性の整理に当たっては、令和5年度及び令和6年度に実施した2Dスキャニングソナーによる管内変状計測結果も含め整理するものとする。

4. 業務上の留意事項

水中ドローンによる管内調査時は安全対策及び水質汚濁防止等に努めるように留意すること。

以 上

筑後川下流用水管内水中部調査業務(仮称)

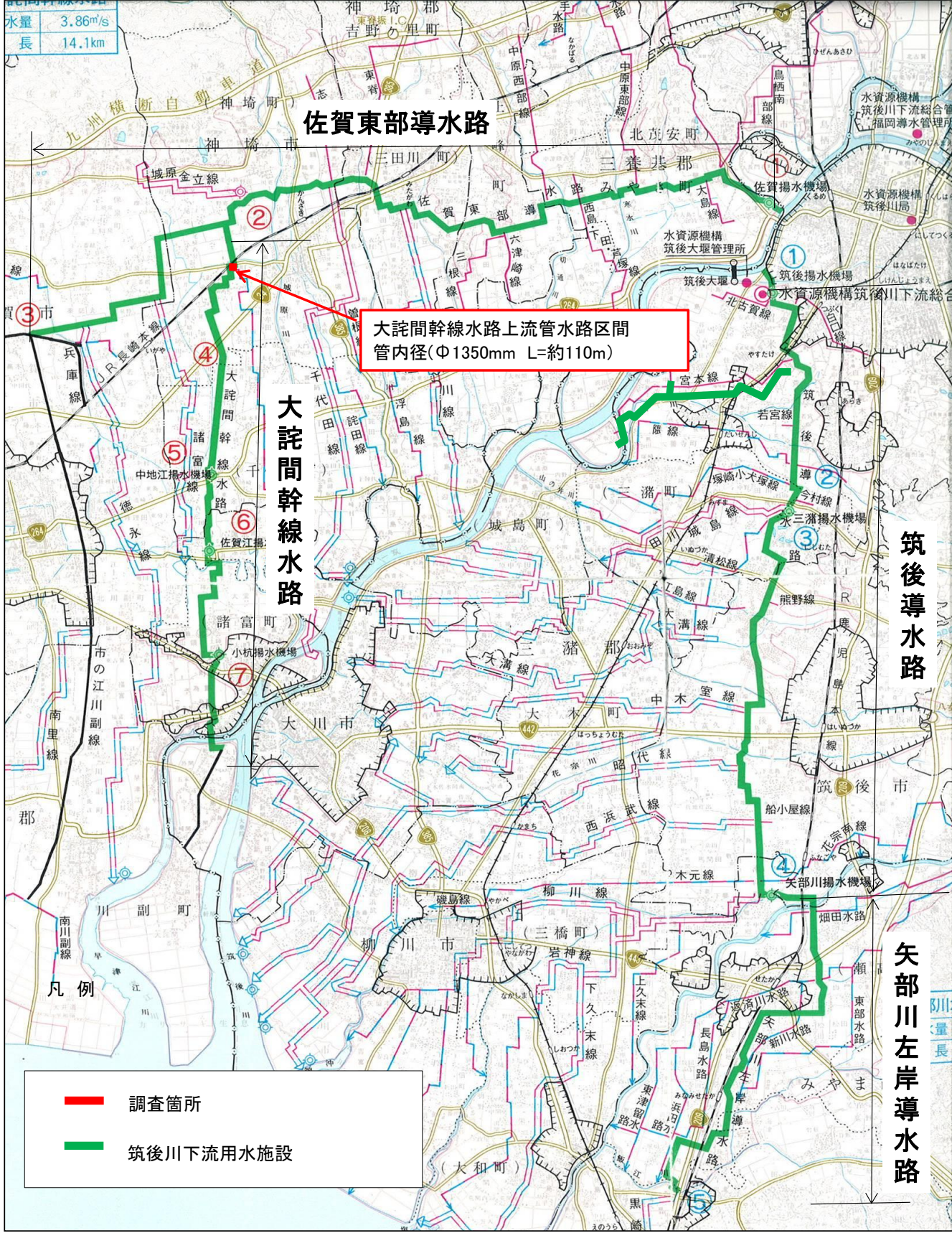
見積もり有効期限は令和8年3月末日までとする。

項目	数量	単位	直接人件費(人)					作業日数 (日)	備考
			測量主任技師	測量技師	測量技師補	測量助手	測量補助員		
1. 事前準備	1	式	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
※候補箇所数の増減により歩掛かりを補正する必要がある場合は、補正式を記載してください。									
2. 管内調査									
(1)調査準備	1	式	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
(2)管内変状計測									
①たわみ計測	1	式	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
②継手間隔計測	1	式	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
3. 調査結果の取りまとめ	1	式	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
4. 有用性整理	1	式	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
合 計			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
5. ROV等装置損料(2Dスキャニングソナー含む)	1	日							〇〇円
6. ROV(水中ドローン)の調査延長(m)	1	日							〇〇m

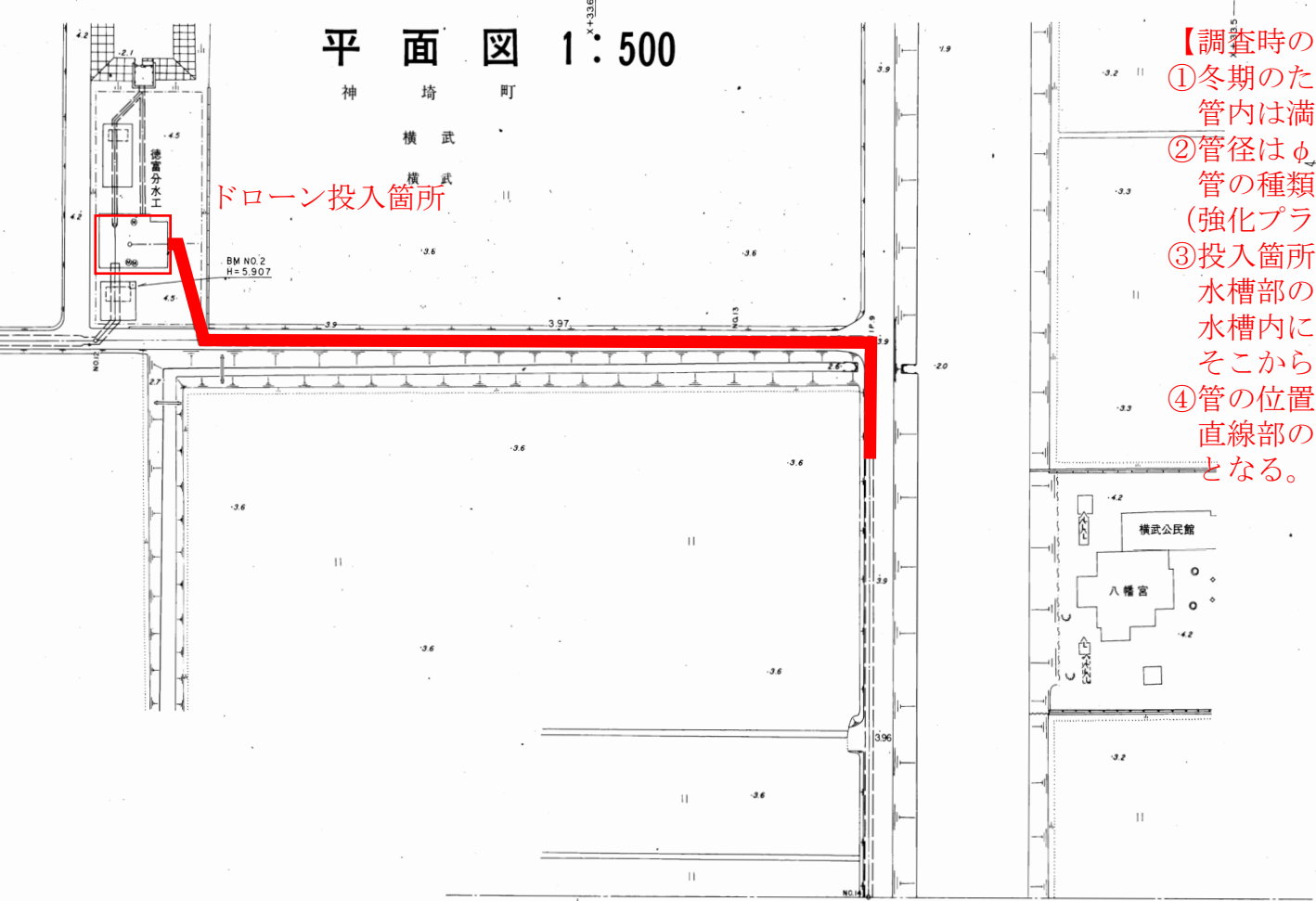
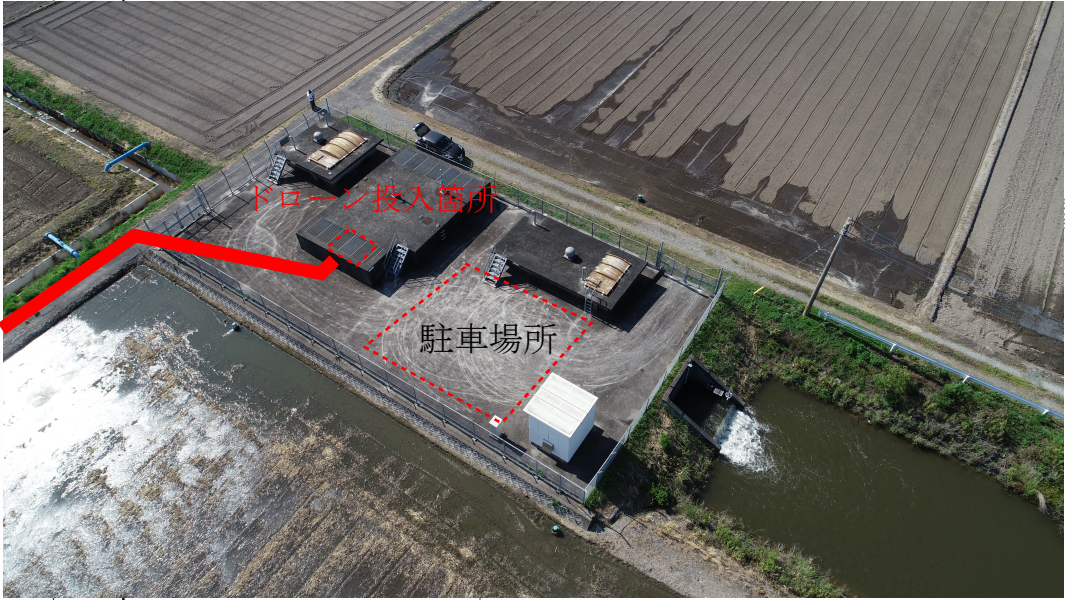
【注意事項】

- ・調査箇所1カ所当たりの作業日数を記載してください。
- ・歩掛補正がある場合には、その補正方法、補正式を記載してください。
- ・国土交通省が公表している「令和7年度設計業務委託等技術者単価」における「技術者の職種区分定義」によるものとします。
- ・歩掛表に記入している職種及び作業項目は参考例です。必要に応じて職種の追加・削除をお願いします。
- ・諸雑費を計上する場合は、何に要する費用か記載をお願い致します。

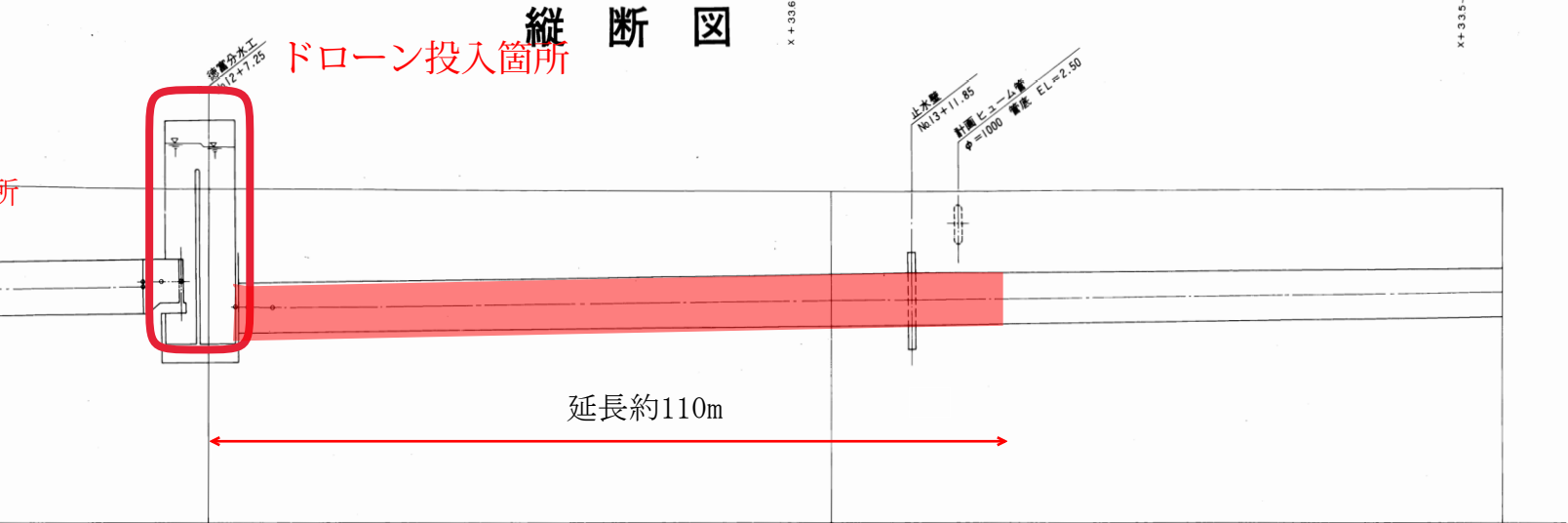
位置図



大詫間幹線水路 管路区間



- 【調査時の条件】
- ① 冬期のため、調査時は通水停止。
管内は満水であるが、流速はほぼ無し。
 - ② 管径はφ1350mm
管の種類はFRPMが主。
(強化プラスチック複合管)
 - ③ 投入箇所
水槽部のグレーチングを撤去し
水槽内に投入。
そこからφ1350mmの管内を調査。
 - ④ 管の位置の特定は、屈曲部の鋼管、
直線部のFRPM管など管種の違いが目安
となる。



勾配	$L=181.15$ $i=0.00221$		$L=261.99$ $i=0.00198$	
管種・管径	強化プラスチック複合管 φ=1500mm 4種管		強化プラスチック複合管 φ=1350mm 4種管	
管中心高	1.134	1.300 1.500 1.500	0.966 0.988	1.164
地盤高	4.35	4.00	3.90	4.00
管路延長	1104.44	1202.09 1200.15 1202.95	1324.88	1424.88
追加距離	1100.00	1197.65 1195.15 1202.95	1300.00	1400.00
単距離	83.50	97.65 2.15 2.80	83.65	78.87
測点	NO.11 +4.85	+97.65 +0.15 +2.95 +7.25 +10.50 +12.65 +16.35	NO.13 +11.85	NO.14
曲線	$IA=89^{\circ}59'35''$			

回	変	更	内	容	承	認	審	査	設	計
承										
認										
工 区 名	大詫間幹線水路神埼横武第1工区									
名 称	平面図・縦断図 5									
登録番号						整理番号				
水資源開発公団筑後川下流用水建設所										

別紙ー 4 過年度調査結果

たわみ量測定判定結果（大詫間幹線水路上流管水路）

工区	管No.	管径	管種 (詳細)	備考	たわみ率				進行状況		判定	
					鉛直方向		水平方向		鉛直	水平	H25・H26	H29
					H25・H26	H29	H25・H26	H29				
	9	φ1200*φ150	鋼管・異径	徳富分水工								
	8	φ1200	曲管	徳富分水工								
	7	φ1200		徳富分水工								
	6	φ1200	曲管	徳富分水工								
	5	φ1200		徳富分水工								
	4	φ1200		徳富分水工								
	3	φ1200		徳富分水工								
	2	φ1200		徳富分水工								
	1	φ1200		徳富分水工								
	1	φ1338	鋼管・曲管	徳富分水工								
	2	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-0.7%		0.0%					
	3	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-2.2%		1.3%					
	4	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-3.7%	-3.7%	3.1%	3.0%	0.0%	-0.1%	S-5	S-5
	5	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-3.1%		2.5%					
	6	φ1338	鋼管・曲管									
	7	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-1.9%		0.7%					
	8	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-2.5%		2.2%					
	9	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-2.0%		1.3%					
	10	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-2.8%		2.2%					
	11	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-2.8%		2.5%					
	12	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-2.7%		2.3%					
	13	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-2.5%		2.2%					
	14	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-2.2%		1.9%					
	15	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-1.6%		1.0%					
	16	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-2.3%		2.0%					
	17	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-2.5%		2.1%					
	18	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-3.5%	-3.5%	2.8%	2.7%	0.0%	-0.1%	S-5	S-5
	19	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-3.4%		2.8%					
	20	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-3.4%		2.8%					
	21	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-2.7%		2.2%					
	22	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-3.1%		2.8%					
	23	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-3.1%		2.5%					
	24	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-2.4%		1.9%					
	25	φ1338	鋼管・曲管									
	26	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-1.6%		1.0%					
	27	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-3.6%		3.1%					
	28	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-4.0%		3.4%				S-4	
	29	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-3.6%		2.8%					
	30	φ1338	FRPM管(Ⅱ類)		-3.6%		3.1%					

 今回調査範囲

調査範囲のうち、計測箇所は3箇所とする。

継手間隔測定判定結果（大詫間幹線水路上流管水路）

工区	継手	管No.	管種	管径	管種 (詳細)	備考	継手間隔 (mm) (H29.12調査)				評価			
							H29	天	地	左	右	H29	H29	H29
神埼横武第1工区	14×15	14	FRP管	φ1500	FRP管(4種)		S-5	38	40	38	38	S-5	75	7
	13×14	13	FRP管	φ1500	FRP管(4種)		S-5	43	39	38	42	S-5	75	7
	12×13	12	FRP管	φ1500	FRP管(4種)		S-5	42	45	45	41	S-5	75	7
	11×12	11	FRP管	φ1500	FRP管(4種)		S-5	45	48	43	44	S-5	75	7
	10×11	10	FRP管	φ1500	FRP管(4種)		S-5	42	43	41	44	S-5	75	7
	9×10	9	FRP管	φ1500	FRP管(4種)		S-5	36	45	42	38	S-5	75	7
	8×9	8	FRP管	φ1500	FRP管(4種)		S-5	45	38	39	41	S-5	75	7
	7×8	7	FRP管	φ1500	FRP管(4種)		S-5	47	44	44	44	S-5	75	7
	6×7	6	FRP管	φ1500	FRP管(4種)		S-5	43	42	43	41	S-5	75	7
	5×6	5	FRP管	φ1500	FRP管(4種)		S-5	43	46	43	46	S-5	75	7
	4×5	4	FRP管	φ1500	FRP管(4種)		S-5	42	44	41	43	S-5	75	7
	3×4	3	FRP管	φ1500	FRP管(4種)		S-5	38	50	46	40	S-5	75	7
	2×3	2	FRP管	φ1500	FRP管(4種)	伸縮継手		312	327	316	321			
	1×2	1	FRP管	φ1500	FRP管(4種)		S-5	38	50	46	40	S-5	75	7
	9×10	9	SP	1200φ1500	鋼管・異径	徳富分木工								
	8×9	8	SP	φ1200	曲管	徳富分木工								
	7×8	7	可とう管	φ1200		徳富分木工								
	6×7	6	SP	φ1200	曲管	徳富分木工								
	5×6	5	可とう管	φ1200		徳富分木工								
	4×5	4		φ1200		徳富分木工、バタフライ								
	3×4	3	SP	φ1200		徳富分木工								
	2×3	2	可とう管	φ1200		徳富分木工								
	1×2	1	SP	φ1200		徳富分木工								
神埼横武第1工区	1×2	1	SP	φ1338	鋼管・曲管	徳富分木工								
	2×3	2	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	71	40	64	55	S-5	85	17
	3×4	3	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)	伸縮継手		245	310	279	250			
	4×5	4	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	47	50	51	49	S-5	85	17
	5×6	5	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	28	57	42	50	S-5	85	17
	6×7	6	SP	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	63	18	30	35	S-5	85	17
	7×8	7	FRP管	φ1338	鋼管・曲管			24	1	8	13			
	8×9	8	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	50	42	46	46	S-5	85	17
	9×10	9	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	38	42	43	38	S-5	85	17
	10×11	10	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	34	39	34	40	S-5	85	17
	11×12	11	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	36	33	37	33	S-5	85	17
	12×13	12	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	36	37	39	35	S-5	85	17
	13×14	13	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	38	40	40	38	S-5	85	17
	14×15	14	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	30	43	31	34	S-5	85	17
	15×16	15	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	45	34	40	40	S-5	85	17
	16×17	16	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	40	31	36	38	S-5	85	17
	17×18	17	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	33	40	35	35	S-5	85	17
	18×19	18	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	21	36	32	30	S-5	85	17
	19×20	19	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	40	27	35	31	S-5	85	17
	20×21	20	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	28	37	32	31	S-5	85	17
	21×22	21	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	39	35	35	37	S-5	85	17
	22×23	22	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	44	40	39	41	S-5	85	17
	23×24	23	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	38	44	40	41	S-5	85	17
	24×25	24	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	49	56	55	50	S-5	85	17
	25×26	25	SP	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	43	22	38	32	S-5	85	17
	26×27	26	FRP管	φ1338	鋼管・曲管			10	5	8	7			
	27×28	27	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	54	45	53	50	S-5	85	17
	28×29	28	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	40	40	42	38	S-5	85	17
	29×30	29	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	38	42	40	38	S-5	85	17
	30×31	30	FRP管	φ1338	FRP管(Ⅱ類)		S-5	39	40	40	38	S-5	85	17

当工区はミサワホーバス製の管を使用しており、継手部は適切に施工しても40mmの幅が残る継手構造となっている。このため、規格値(+35mm~-33mm)に40mmを加算した、+75mm~-7mmを標準値として評価する。これを超える箇所はハッチングで示す。

今回調査範囲

調査範囲のうち、計測箇所は3箇所とする。